

エリザベスは

チョコバーが大好き

4

小川典子

英

国に吹く冷たい風は、雨の湿気を帯びて体の芯にしみる。だから英国人はウールのセーターにアノラック(フード付きレインコート)を着込んで、心地良さを求める。表面に油が塗られてきた王室御用達のアノラックは手ごろな価格が人気を呼び、10年ほど前、ヨーロッパ大陸で大流行した。ドイツ人やフランス人はこれを颯爽と着こなしたが、油と脂がガビガビになじむまで着古してこそ英国風。英国人の人生哲学、際立つファッション感覚である。

ブリテン諸島に点在する城

の演奏会に出演したことがきっかけで、私には貴族の知り合いがいる。城の維持負担が莫大なため、貴族の生活はおしなべて質素だ。ある日、ロンドンの地下鉄でT伯爵に出くわした。スーパールの袋に古本を詰め込んだ伯爵は「大切な本を、私の城の図書室から別宅に運んでいるところで」と声をはり上げる。貴族とわかる語り口が人目を引くなか、そのいでたちは、襟が擦り切れたワイシャツに裾がほどけたセーター。人間の価値は着飾ることで判断されてはならない。品格は着るものを超えて輝くはずだ。…T伯

アノラック

爵は、英国貴族の固い信念を地でいっている。

と

はいえ、破れかけた服を好むのは、英国紳士全階級の共通事項であるらしい。彼らは小銭入れを持たず、厚ぼったいポンド硬貨をスポンのポケットでじゃらじゃらいわせる。だからポケットが抜ける。気に入ったセーターやツイードのジャケットを来る日も着続け、ひじが

抜ける。だからひじあてが必要になった。これで「本体の生地に関係のない素材と柄」をセンス悪く縫い付ければ、一人前のジェントルマンと言える。着慣れたものを破けても着る。誰が何と言おうとそれがいちばん着心地が良く、ぜいたくなのである。

掘

り出し物の古着を自ら慢げにまとう貴族夫人。ジョーンズに真珠の装飾品



橋爪拓治撮影

や革靴を合わせ、さりげない演出が心憎い中流女性。さまざまな服が気軽に買えるようになった今だが、女性の髪型は、はっきりと階級を主張する。伸びた髪をゴムで無造作に束ねる中流に対し、整えた髪に派手な髪飾りは、労働者階級の女の子のトレードマークだ。

英国では、物事に夢中になり徹底的に追求する人のことを「アノラック」と呼ぶ。アノラックに身を包み鉄道を追う青年、の意である。降り続く雨に培われた英国人気質、いずこもおしゃれの仕上げは着古したアノラック。雨をたっぷり含んだ暗い雲の空に、ガビガビのアノラックは気高く映り、絶妙な味わいをもも出し出す。(おがわ・のりこ ヒアニスト、毎週木曜掲載)